

令和4年度 第4回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和5年2月24日（金） 14時00分から15時30分まで
2. 開催場所 浜松市立浜北北部中学校 特別活動室
3. 出席委員 山本忠雄 池谷真也 和田安彦 矢野陵子 室内恵理香（学校支援CD）
4. 欠席委員 なし
5. オブザーバー 小杉幸次（中瀬協働センター）
6. 学校支援コーディネーター（委員外） 岡本奈緒（兼CSディレクター）
7. 学 校 影山ちか（校長） 鈴木健（教頭） 石島正巳（CS担当教員）
8. 教育委員会 堀田洋一（教育総務課）
9. 傍 聴 者 なし
10. 会議録作成者 CSディレクター 岡本奈緒
11. 議長の選出

司会の教頭より議長を会長にお願いしたい旨を伝え、協議の結果全員異議なくこれを承認した。

12. 協議事項

- (1) 学校関係者評価について
- (2) 来年度の学校運営基本方針について
- (3) 学校運営協議会の自己評価について
- (4) いじめ防止等のための基本的な方針について

13. 会議記録

司会の教頭より、委員総数5名のうち5名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価について

主幹教諭より別途資料に基づき概要説明があり、委員からは以下の発言があった。

池谷委員：職員の感覚と生徒自身の捉え方がかなり乖離していると感じる。家庭学習の習慣がついていない。塾に通っていることで安心しているのではないか。

和田委員：解答の中で「分からない」というパーセンテージが全体的に多いと感じる。評価の基準が分かっていないのではないか。一般的な会社では数値目標を求められることが多い。先生であればいろいろな評価の項目に対してある程度やったという感覚があるのか、「分からない」というのはやっていないと同じではないか。

主幹教諭：事務職員や項目によっては関わりのない教員もアンケートを実施しているので「分からない」がどうしても多くなってしまう。

矢野委員：「分からない」に対して関わりのない職員をアンケート対象外にするのではなく、こういったアンケートが毎年あるので、そういうつもりで北部中をながめるのを仕事のスタイルとして持ってほしい、日頃から生徒の様子を積極的に見てもらいたいとお願いしてはどうか。

校長：ここは事務センターなのでなかなか難しいが、一員であることに変わりない。今後検討していきたい。

矢野委員：学校は楽しいですか？の質問に9割以上を目標にしているというが、楽しく学校にいけることが一番素直でストレートでいい、先生方にはそこも目指して教育活動をしてくださっていると思う。しかし、楽しいばかりじゃないけど行く、行きたくないところにも行くのを学ぶのが中学時代だと思う部分もある。その中から行ってみてどうだった？というところにたどり着けばいいと思う。子どもが思う「学校が楽しい」は薄っぺらい楽しいをイメージしているだろう。おもしろい先生がいる、冗談が言える等。

そこばかりを目指すのは、教育としてはずれてくるはず。結果、学習内容も下がる。

主幹教諭：3年間の中学校生活を振り返った時に、苦しかったことも含めて「楽しかった」と思える、そんな活動ができればと教員は思いながらやっている。

校長：「学校は楽しいですか？」の文言を見直す時期にきているかもしれない、検討していく。

山本会長：言葉の解釈や捉え方をこれからの運営に加味されていくと信じる。

室内委員：いろいろなことに対して、時代にあうように変えていかなければと感じる。

池谷委員：一人一台タブレットの活用状況を教えてほしい。先生や教科によって活用の力量に差がでているのではないか？

校長：ワークやアンケートの時に使用し、学級閉鎖の時は持ち帰る。来年度からは週に一度持ち

帰り、課題を与えることを検討している。確かに教師によって差はある。そこは教師も変わらなければならない。研修していく。

山本会長：来年再来年に向けて検討改善をしていく内容であると理解した。

(2) 来年度の学校運営基本方針について

校長より、別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があり委員からは、以下の発言があった。

校長：今年度は学校支援ボランティア「家庭科」「書写」において、とても良い関係を築けた。来年度はぜひ数学に入ってくれる方をお願いしたい。1年生のつまずきの段階で何とかしてあげたい。

矢野委員：わが子が入学した時、コロナにより2か月ほど学校の休校期間があった。その期間の学習が追いつかず、そのつまずきを埋めるのはなかなか難しかった。早歩きして、平気な子、間に合う子もいるだろう。みんなにフォローが必要だとは思わないが、難しい子も多かったのではないかと。フォローはどんなふうを考えているのか？

校長：支援員はいる。それにより助かる子もいるが、教室でマンツーマンを嫌がる子、取り出しがなかなか難しい子もいる。できない子が集まってやる方ができるようになるのではないかと。タブレットの活用を含め、夏休みなど長期休暇のときにサポートにはいつでももらえる人がいると助かる。

山本会長：コーディネーターの立場から意見を頂戴したい。

室内委員：学校から頼まれてから動いているのが現状。必要であれば人材確保に努めたい。

矢野委員：サポートは子供たちに近い年代、大学生など若い世代でもおもしろいかもしれない。

また、こういうところに重点を置きながらやっているという、先生方の思いが在校中の保護者にも伝わるといいと思う。

委員全員が賛同し、学校運営基本方針が承認された。

(3) 学校運営協議会の自己評価について

岡本より、別紙資料に基づき全体説明があり、委員からは以下の発言があった。

<評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか

山本会長：我々が生み出すことは権限的にもなかなか難しい。先生方からのニーズにより双方のコミュニケーションが始まり、そして人材探し、というやり取りになるのではないかと。

室内委員：こちらからどのように声をかけていいのかわからない。要請があれば人材を探したい。また、保護者の協力もあればもっと広がっていくのではないかと。

<評価項目3> 今年度の取り組みの評価を踏まえた来年度の目標

池谷委員：委員としてまだ手探りだが、学校の状況を理解していないのに、授業に地域の人材を活用して関わっていくことに、今後の広がりへの期待はなかなか難しいのではないかと。運営協議会として、関心が比較的高いのは部活動だろう。指導に関わりたいと思っている人はたくさんいるのではないかと。授業となると二の足を踏む、無理ではないかと。

和田委員：学校としては、地域の方との関わりを増やしながらかつ足りない部分を補って欲しいということがあるのかもしれないが、コーディネーターが年間で割り振られた授業のカリキュラムに定期的に来なくてはならないというのは、入り口としてハードルが高いのではないかと。望んでいるものがあれば、まずは単発でそして徐々に回数を増やしながらかつやっていく。学校側が求めているものに対していろいろ乗り越えていくこともあろうが、毎週来られる人も多くはないだろう。単発で補強したい、バックアップしてほしい部分に協力してくれるPTAや保護者を巻き込んで活用できればよいのではないかと。

(4) いじめ防止等のための基本的な方針について

教頭より別紙資料に基づき概要説明。

学校支援ボランティアについて岡本より進捗報告。

夢育やらまいかCS加算分について教頭より報告。

校長より、委員に対し卒業式のご案内通知について説明し、会を閉じた。